

グリーンコープの 買い物 支援

住んでる街を住みたい街に！ 移動販売車が商品と笑顔を載せて地域を走ります



グリーンコープ生協ふくおかの「みんなのお店元気カー」。「元気ですか？」の気持ちを込めて名付けました。

現在、過疎化や少子高齢化に伴い、買い物に困難を感じている人が、全国で800万人以上いると言われています。グリーンコープは、買い物支援のための移動販売を、ふくおか、くまもと、みやざき、ひろしまの各生協で行っています。

グリーンコープの移動販売の取り組みは、買い物の利便性を図るだけでなく、地域のコミュニティや人と人とのつながりを取り戻す役割、高齢者などの見守りの役目も果たし、地域の方々から喜ばれています。

また、熊本地震をはじめ災害支援の現場でも、被災者に寄り添った支援の一環として移動販売車が活躍しています。

現在170ヵ所以上に広がった移動販売の取り組みについて紹介します。

グリーンコープの 移動販売の目的

- ・買い物が困難な方への支援
- ・地域のコミュニティの再生
- ・高齢者などの見守り

地域福祉の
取り組みなんだね



**いのち
生命を大切に
グリーンコープだからこそ
食べものも、地域福祉も**

グリーンコープが移動販売を始めたきっかけは、2010年頃グリーンコープ生協ふくおかに届けられたある組合員からの「地域にお店が無くなって困っている。高齢でカタログでの注文も大変になった。何とかできないだろうか」という相談でした。当時すでに買い物困難者の存在は社会問題となっており、過疎地だけでなく、30年程前にできた都市周辺の新興住宅地等でも、少子高齢化がすすみスーパーが撤退するなどして、買い物環境の悪化は深刻な問題でした。お店が無くなることで、買い物にきた人々の交流の機会も少なくなり、特に高齢者は孤立しがちになっていました。

170ヵ所以上で 移動販売を展開！

福岡県	17地域 109ヵ所
宮崎県	2地域 37ヵ所
熊本県	4地域 16ヵ所
広島県	3地域 13ヵ所

(2019年10月現在)

グリーンコープは「生命」を何より大切に考える生活協同組合です。「生命を育む食べものの運動」をすすめるとともに、人と人とのつながり支え合って誰もが安心して暮らせる地域をつくらうと、高齢者福祉や子育て支援、生活困窮者支援など、さまざまな地域福祉に取り組みできました。

「移動販売車を走らせれば、買い物にきた人同士の会話が生まれ、関わりが薄くなった地域コミュニティが再生できるかも。高齢者や小さい子どもがいるお母さんを一人にせず、見守ることもできるのでは」と、地域福祉の一環として買い物支援ができないかと考えました。

地域の誰もが 利用できる仕組みに

「地域の課題を解決するため買い物支援に取り組むなら、組合員に限らず地域の誰もが利用できる仕組みにしたい」。しかし、離島や中山間地、災害被災地以外で組合員でない人が利用するには、生協法により行政の認可が必要でした。そこでふくおかでは、地域の実態を把握して福岡県に働きかけることに。組合員は自分が住んでいる地域の情報を持ち寄り、自治会長など地域の代表者とグリーンコープをつなぐ役目を担いました。職員は運行候補地域の行政や自治会を訪問して情報を得るとともに、戸別訪問して住民の声を聞きました。また、近隣の店舗情報や交通アクセス、高齢化率などについても一つひとつ地道に調査し、検討を重ねました。調査結果を基に、福岡県に移動販売車の組合員以外の利用を申請。一方で、配送を担当する職員やワーカーの多くが認知症サポート養成講座を受講し、見守りなどに対応できるよう準備しました。

地域との関係性を大切に

移動販売を開始するに当たり、グリーンコープが一番大切にしたいことは、地域との関係性です。自治会などと丁寧な話をすすめ、説明会や試食会を開催し住民の要望を聞くなどして、信頼関係を築いていきました。また、料理会などを催して地域の方々や交流を図り、地元の商店にも合同の販売を呼びかけたいという思いで取り組みをすすめています。

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

臨時号

移動販売の 取り組み

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

買い物支援としての移動販売

□お店まるごと運んです！



利用者さんの声

藤原 清人さん(85歳)
福岡市内の徒歩10分圏内にスーパー等
がない高台にある住宅地にお住まい。

一人暮らしで、足が悪くて遠くまで買い物に行けないから、毎週来てくれる元気カーは欠かせず利用しています。ちゃんとした商品だし、おいしいから、安心して買い物できます。スタッフは優しいし、荷物を家まで運んでくれるから、本当に助かりますよ。



元気カー担当者の声

一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ・フォレストのワーカー

特に高齢の方のお話し相手になることを心がけています。毎週お会いする方もいらっしゃるの、一人ひとりの好みや家庭の事情に合った商品をおすすめしています。「あなたたちが来てくれるから助かる、生きていける」と感謝の言葉をいただくこともあり、この仕事の喜びになっています。

地域の声

遠賀町

広渡区長 原田 英雄さん

昔からあったお店が無くなり、お店や道すがらのコミュニケーションが無くなっていました。住民の高齢化もすすんでいます。まだ元気な人も先のことを考え、今から準備しておかないといけない、強く思いました。区長会で対策を話し合い、町と協議を重ねてたくさんの方の思いと努力で移動販売が実現できたので、もっと盛り上げていきたいと思っています。

水巻町

民生委員・児童委員協議会会長 副田 泰弘さん

車の運転ができるうちはいいけれど、数年後にはどうなるかわからないので、買い物支援は自分たちの将来にも必要な取り組みです。できるだけ地域の皆さんを集め定着させて、生活の一部となるよう願っています。この取り組みが継続できるよう頑張りたいと思います。

グリーンコープから

グリーンコープ生協ふくおか 理事長
三原 幸子さん

遠賀町で移動販売が始まった頃、皆さんに知っていただくため、組合員をはじめさまざまなワーカーズが協力してイベントを開催しました。みんなが自分たちが住む街をもっと良くしたいという思いで元気カーをアピールしました。

元気カーの目的の一つに高齢者の見守りがあります。ある地域で、いつも利用される方の姿が見えないのでお声かけに行ってみると、動けないでいらっしやるのがわかり、急いでご家族に連絡をとったということがありました。大事にはいたらずに済んで、本当に良かったと思います。

組合員も地域の住民のひとりとして、グリーンコープの力を借りることで願いを叶え、地域をより良くしていけるといいます。



地域・行政・グリーンコープが
力を合わせ取り組んでいます

行政の声

遠賀町役場 担当の方々

移動販売車の稼働に向けて、各地区の区長や民生委員の皆さんの強力な後押しがありました。モデル地区の選定や人が集まりやすい場所はどこか、また、地元での説明会の開催など、町や各地区とグリーンコープがタッグを組み、取り組みをすすめることで実現しました。

「魅力あるまちづくり」の実現を目指して

遠賀町長 古野 修さん

遠賀町では、高齢化に伴い買い物が困難になった世帯等を対象として、利便性の向上と生活基盤を確立するための移動販売を平成25年度のモデル事業から開始しました。おそらく全国初であろう自治体からの業務委託をグリーンコープ生活協同組合ふくおか様に受託してもらい、地域に住む会員外の住民への販売が可能となったものです。また、本年度からは固定店舗である「キープ&ショップ」の店出もあり、さらなる利便性向上に寄与されることを期待いたします。

住みづつくなる遠賀町、魅力あるまちづくりの実現を目指し、今後もタッグを組んで事業展開を進めて行かなければいけないと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

人と人がつながりあって
誰もが安心して暮らせる地域づくりのために

行政・地域

買い物支援が急務！

遠賀町

移動販売のきっかけは2012年、遠賀町議会にて全国的に買い物困難者が増えている。遠賀町としてどのような対策ができるかという質問が出されたことでした。当時社会問題となっていた買い物困難者の存在は、遠賀町でも例外ではなく、今後確実に迫りくる課題の解決に向けて、早急な取り組みが望まれていました。

町ではまず、高齢者や一人暮らしの方を対象にアンケート方式で「買い物動向基礎調査」を実施し、住民のニーズを聞くことから始めました。

調査結果から見えてきたのは、近隣から助けが得られない方や一人世帯の方が多く、何らかの対策が必要だということでした。考えられたのは、①店を誘致する、②コミュニティバスでの移動手段の確保、③宅配・移動販売車の3つの方法でした。商工会や地元の商店と相談しましたが、どれも実現までには高い壁があることが分かりました。

ちょうどその頃グリーンコープから移動販売の話があり、遠賀町でもぜひ「元気カー」での移動販売を実施しよう、県から認可を受けるための行動を起こします。県からの新たな認可は下りませんでした。町が買い物困難者に対する支援事業として「業務

委託」とすることで、生協組合員以外でも買い物ができる「元気カー」の運行が実現しました。特に要望が多かった3地区で3カ月間試験運行することからスタート。現在は週4回、16カ所です。

遠賀町からの業務委託でキープ&ショップを開店！



移動販売で遠賀町と築いた関係性はさらに発展し、買い物支援のための店舗をという遠賀町からの相談を受け、2019年6月「キープ&ショップ遠賀川駅前」をオープン。組合員でなくても買い物ができます。

水巻町



昔から地域になじみの深い移動商店なども協力。

今後は、運行の回数を増やすことや、水巻町全域での実施を目指しています。

飯塚市鎮西地区

2019年7月に買い物支援事業を始めた飯塚市鎮西地区。約1年半前、鎮西地区まちづくり協議会では、高齢者の買い物支援について検討を始めた。社会福祉協議会が行った「困りごと」についてのアンケート結果を基に移動販売車による買い物支援の実施を決め、近隣地区はもちろん他地域まで足を延ばし、民間の移動販売を視察するなどして、さまざまな研究・学習を行いました。情報を集める中、グリーンコープの移動販売車について知り、地域福祉の考えに共鳴したことで、元気カーの運行が決まりました。

現在、毎週月曜日に8カ所です。

「元気カー」には、地域に住む人と人とのつながりをつくるという目的があります。本来の目的を果たすためにも、組合員がつなぎ役になりたいと思います」と話すのは、中部地域理事長の木室裕子さん。たくさんの方が買い物にいられてコミュニティが生まれるようにしたい。そのためには、グリーンコープ商品の良さを伝えていきたいと考えています。

今年3月には組合員事務局の元気カー担当が誕生し、試食などで商品の特長をお伝えしたり、利用される方とお話しています。今後も地域の方に喜んでもらえる企画を考え、たくさんの方が来なくなる元気カーを目指します。

グリーンコープ

組合員が力
元気カーを盛り上げたい！

みやざき げんきカーとK&Sが
一緒に地域を盛り立てます

みやざきでは、都城市の買い物困難者支援事業を受託し、対象地域に暮らす組合員以外も利用できる「みんなのお店げんきカー」(以下げんきカー)を運行しています。業務委託を前に都城市は、全国に先駆け移動販売の業務委託を始めた福岡県遠賀町を視察しました。都城市でも業務委託をして移動販売車の運行に取り組むことに決め、4ルートの運行を民間に公募しました。みやざきはそのうちの1ルートを受託。げんきカーの拠点となるキープ&ショップも

グリーンコープ生協みやざきでは、山間部が多く過疎化がすすむ都城市からの業務委託を受け、移動販売の取り組みを行っています。



みんなのお店 げんきカー

2015年4月にオープンさせた。9月には、げんきカーの運行を開始しました。

市の公募を受けて、2014年、げんきカーの準備会を立ち上げました。都城支部委員長で、準備会メンバーでもあった現みやざき理事長の日高容子さんは、当時の様子を地域の方々がすくく困っていること、何か私たちにできることではないかと移動販売の検討をすすめました。どんな商品を配置するかや、トラックのデザインや名前も検討しました」と振り返ります。

□福岡県内12市5町109カ所
実施しています

※赤字は業務委託を受けている市町村です。
※詳しくは各支部へお問い合わせください。

災害支援としての移動販売



車内いっぱい並んだ商品を手に取って選べます。



買い物をふれあいの場に

グリーンコープ生協くまもとでは、熊本地震の被災地で、買い物支援と併せて、みんなが集まって話ができる場をつくろうと、移動販売車を運行しています。

被災地からの要望で 移動販売を開始

2016年4月に起きた熊本地震の直後から、大阪から鹿児島までのグリーンコープの力を結集して、物資や炊き出し、家の片づけなど、できる限りの支援を行いました。くまもとでは災害支援センターを設置して被災された方々からのニーズを聞くとともに、組合員も避難所を訪問して一人ひとりに話を聴き、寄り添った支援を行ってきました。

そのような中、物資支援を行っていた熊本市の水源団地から、地域のスーパーが被災して買い物ができず困っているとの情報が寄せられました。くまもとでは、「支援物資で生活をされている方が自分で見て買い物をするので、日常生活に戻ることにつながるのでは」と考え、早速、移動販売

に取り組むことに。ふくおかの元

気カー2台を借り受け、災害支援センタースタッフと組合員でスタートさせました。次第に他の地区からも要望が届けられ、運行範囲は広がっていききました。避難所から仮設住宅やみなし仮設住宅への移転が始まると、そちらでも移動販売を開始しました。

「くまもと」 ふれあい元気カー

南阿蘇村の避難所になっていた旅館から、使われなくなったマイクロバスを支援のために譲り受けました。ぜひ、くまもとの移動販売車として役立てたいと、組合員がボディのデザインや名称を検討。名称には、移動販売車が単なる販売だけでなく、人々のふれあいの場となるようにとの願いを込めました。移動販売先ではいすやテーブルを出して、利用者がお茶や試食をしながら会話を楽しめるようにしています。

顔を合わせ、見守る 支援の延長

くまもと理事長の高濱千夏さんは「東日本大震災の被災地を視察して学んだのは、孤立防止のための横のつながりや、見守りの大切さでした」と話します。組合員は、サロン活動などを通して、仮設住宅など転居先での

新しいコミュニティづくりを支援してきました。また、高齢者など見守りの必要な方には、災害支援センターのスタッフが定期的に訪問し、話を聴きます。移動販売はその延長線上にあり、組合員やスタッフと被災された方、また被災された方同士が顔を合わせ声をかけ合うことを大事にしています。「サロンで試食として出したグリーンコープ商品がおいしいと、その仮設住宅でブームになり、移動販売でたくさん利用していただくこともありまう」と高濱さん。

現在、仮設住宅などから災害

公営住宅への移住がすすみ、支

援の形も変わろうとしています。

「いずれにしても私たちは、被災者と支援者という関係では

なく、人と人としてつながる支

援をしていくことに変わりはあ

りません」。3年半の間、被災地

で暮らす人たちに寄り添い続け

てきた高濱さんの言葉から、こ

れからの地域に必要なものが見

えてくるようです。

利用者さんの声

いつも来てくれるスタッフさんが息子や孫のようで、楽しみに待ってます。気にかけてくれる気持ちが嬉しい。他の移動販売車も来るけど、グリーンコープでしか買わないよ。



グリーンコープが被災直後から家の片づけや物資の支援を行っていた内山春子さん(76歳)。その後、仮設住宅、災害公営住宅と住まいが変わっても、災害支援センターのスタッフが関わり続けています。移動販売の際は必要なものを電話で聞き取り、自宅まで届けて顔を合わせ、お話を聴いています。

災害支援センタースタッフからのメッセージ

同じ被災者として痛みが分かるので、力になりたいと思って働いています。利用者さんの話を丁寧に聴き、同じ立場に立って理解し、気持ちに寄り添うことを心がけています。

くまもと!ふれあい 元気カー



仮設住宅では、移動販売車の周りに集まった方たちが会話を花を咲かせます。



地域に喜ばれる支援を 目指して

グリーンコープ生協ひろしまは、2018年7月の西日本豪雨水害で甚大な被害を受けた地域で、さまざまな支援活動に取り組んできました。県内の2自治体からの要請を受け、支援活動の一環として移動販売車を運行しています。

地域の皆さんの 力になりたい

安芸郡坂町の小屋浦地区では、地区全体が豪雨の被害を受けました。ひろしまでは、組合員や職員が避難所を毎日回り、被災された方の声を聞き、必要なものを届ける支援を続けてきました。そんな中、地区の商店が閉店し買い物に困難になっていたことから、坂町役場より買い物支援の相談を受けました。ひろしまでは「力になりたい」と、2018年8月中旬から毎週移動販売車「げんきくん号」の運行を始めました。

呉市からも8月末に移動販売の要請があり、9月中旬から安浦応急仮設団地へ毎週運行しています。その後、「私の地区にもぜひ来てほしい」と近隣から声がかかるようになり、販売箇所が少しずつ増えています。

地域に寄り添う支援を



「休んでいかれませんか?」げんきくん号へ買い物に來られた方に組合員が声をかけます。

グリーンコープが目指す 地域福祉の実践として、 移動販売車が活躍しています



一般社団法人
グリーンコープ共同体
代表理事
グリーンコープ生協ひろしま
理事長
熊野 千恵美さん

グリーンコープの買い物支援が地域の方に喜ばれ、取り組みが広がっている様子から、グリーンコープが地域に根差していることを実感しています。助け合い支え合いの心をベースに、東日本大震災の被災地支援で学んだことを、ふくおかやくまもと、ひろしまへとつないできました。

私たちは「被災された方のためになんとかしたい」という組合員の声をキャッチし、みんな考え、支援を形にしています。組合員の皆さんから寄せられたカンパが大きな支えになっています。一人ではできないことも、組合員の力を集めることで、グリーンコープの支援やさまざまな運動をすすめる力になっています。

ひろしまの組合員は、くまもとが行っている支援の様子を聞いていたので、買い物支援と同時に、心のケアも大切だと考えました。組合員、組合員事務局、福祉ワーカーズが協力し、移動販売車の横にテントを立てお茶を用意し、買い物にきた方がほっと一息ついて話ができるスペースを作りました。心がけたのは、来られた方の声に静かに耳を傾け寄り添うこと。被災された方の気持ちに分かるから何とか力になりたいと、被災地に住んでいる組合員が率先して声をかけ続けています。

高齢の方が多い地域では、孤立しないように、移動販売で訪れる際に積極的に声かけをしています。また、買い物をしながらご近所同士で「元氣そうで良かった」とお互いに声をかけ合うコミュニティの場にもなっています。